

令和8年度 協働提案事業補助金テーマ

1	【テーマ】	【関係課】
	スマホ教室の継続的な開催	DX戦略室
	【解決したい課題・現状】	
	定期的なスマホ教室の開催をする場合に、講師と受講者を集めることが課題となっている。	
2	【目指す状態(実現したい状態)】	
	スマホ教室の受講を通じて、市内でのデジタルデバインドを解消する取組が継続し、世代に関係なく市民がスマホを活用して、迅速かつ正確な情報収集・情報共有・情報伝達ができ、瀬戸内市からの発信内容をきちんと閲覧できている状態。	
	【テーマ】	【関係課】
	福祉防災力の向上 ～誰ひとり取り残さない防災の実現～	危機管理課
3	【解決したい課題・現状】	
	- 近年の災害においては、犠牲者のうち高齢者や障がい者の占める割合が高くなっている。 - 行政主導による要配慮者の支援体制整備の取組には限界があり、地域における支援体制づくりや、福祉専門職等の積極的な参画、各事業所等における主体的な取組の推進が必要。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	- 高齢者や障がい者の支援に関わる地域住民や福祉専門職等が継続して防災について学ぶ場がある状態。 - 災害時に要配慮者等が自助・共助において避難行動を実施することができる状態。	
4	【テーマ】	【関係課】
	『〇〇×防災』による市民の防災意識向上	危機管理課
	【解決したい課題・現状】	
	- 市主催の防災研修会や訓練において、参加者の年齢層や性別には偏りが見られる。 「令和6年度市民まちづくり意識調査」の結果では、災害時に非常持出品を準備している市民の割合は34.3%に留まっており、各家庭における防災意識向上や備えの推進が急務となっている。	
5	【目指す状態(実現したい状態)】	
	- 多様なカテゴリーと「防災」を掛け合わせた新規性のある取組が展開されることで、通常の防災イベント等では関心を持ちにくい属性の市民にも、平時の備えの重要性が伝わる状態。 - 瀬戸内市の地理的、経済的、歴史・文化的特性を踏まえた取組が展開されることで、市民の防災意識向上と併せて、地域活性化やシビックプライドの醸成、まちのイメージアップなどの相乗効果が得られる状態。	
	【テーマ】	【関係課】
	平常時・災害時に頼れる防災ネットワークづくり	危機管理課
6	【解決したい課題・現状】	
	平常時・災害時において地域防災活動をけん引する人材等のネットワークづくりや、被災者支援に係る関係団体等の連携体制の構築、要配慮者等(高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、外国人など)に対する切れ目のない支援体制づくりが課題となっている。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	- せとうち防災リーダー等の防災人材が平常時から学び、情報交換を行う場があることで、災害時においても相互に連携し、地域主体による防災活動が展開できる状態。 - 要配慮者等に関わる団体どうしのネットワークや、当事者どうしのネットワークにおいて、日ごろの活動にあわせて防災の取組が行われることで、災害時においても円滑な支援が実施できる状態。	

5	【テーマ】	【関係課】
	瀬戸内市営バスの利便性向上による新規利用者の増加	企画振興課
	【解決したい課題・現状】	
	・市営バスの利用者数は年々増加傾向にあるものの、固定客が多く、利用が伸び悩む路線もある。 ・市が発行する公共交通マップや市営バス時刻表では市営バス路線沿線の飲食店や店舗の情報が得られない。 ・観光客が目的地まで向かうためにはどの路線に乗ればよいか迷うことがある。	
6	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・市民・観光客ともに、移動手段として選択肢の一つに挙がる状態。 ・市営バスの新規利用者の増加を促すような、魅力的な交通マップがある状態。 ・初めて瀬戸内市を訪れる観光客であっても、どの路線に乗れば目的地に行けるかが分かる状態。	
	【テーマ】	【関係課】
	つながる想い、広がる行動 ～SDGsが息づく未来のまち～	企画振興課 (SDGs推進室)
7	【解決したい課題・現状】	
	・市民へのSDGsの認知度は年々向上しているものの、令和6年度瀬戸内市市民まちづくり意識調査によると、「SDGsを知っている」と答えた市民は56.5%、「SDGsの目標達成のために何らかの行動している」と答えた市民は30.7%にとどまっている。 ・「瀬戸内市オリジナルSDGsカードゲーム」の出前授業・出前講座の展開により、子どもたちへのSDGs教育は進む一方、大人への意識醸成や行動変容が進んでいない。 https://www.city.setouchi.lg.jp/site/setouchishi-sdgs/149898.html	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・市民がSDGsを正しく認知するだけでなく、SDGsのための行動を行っている状態 ・誰もがSDGs＝持続可能なまちづくりとして市民が身近に感じ、自分にもできるSDGsを発見し、地域活性化に参画している状態 ・なお今回は、SDGsの目標NO.4「質の高い教育をみんなに」、NO.11「住み続けられるまちづくりを」に関連した、ビヨンドSDGsも見越した今までにない新規性のある事業提案を募集する。	
7	【テーマ】	【関係課】
	多文化共生のまち、せとうち	ダイバーシティ推進室
	【解決したい課題・現状】	
	・瀬戸内市内には、外国人住民が多く生活しているが、特定技能実習などで来日された方が多く、市民との交流が希薄である。 ・日本の文化やマナーを知る機会が少なく、意図せず地域住民との軋轢が生じてしまうことがある。 ・市民の中には、外国人に対しバイアスを持っている住民も少なくなく、外国人住民との間に壁ができてしまっている。 ・市民が、外国の文化に触れる機会が少ない	
7	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・市民が、外国人住民に対してバイアスを待たず、国籍に関係なく交流が生れる状態。 ・国籍や年齢に関係なくご近所同士で助け合いが出来る状態。 ・就労のために瀬戸内市に住んでいる外国人住民が、地域住民との交流を通し、暮らしやすい状態。 ・外国人住民、地域住民ともに互いの文化を理解し、違いを認め合い、軋轢が生じない状態。 ・市民が、外国の文化に触れる機会が多くある状態。	

	【テーマ】	【関係課】
	高齢者が元気で安心して生活できる地域づくり	いきいき長寿課
	【解決したい課題・現状】	
8	・介護給付費が増加している。 ・介護人材、専門職の数が減少している。 ・生活支援の担い手が不足している。 ・集いの場(サロン、はつらつ教室など)の参加者やリーダーが減少している。 ・集いの場に行けなくなった人の中には、集いの場に行きたいけど、足腰が悪くなったり、体力が低下して行けなくなった人が増えている。 ・多様な活動や場所の活用ができていない。 ・要支援状態の高齢者が利用できる社会資源が不足している。介護保険サービスにおける通所リハビリは市内1カ所のみ。介護保険サービス以外では、集いの場を除いて、リハビリ目的で利用できるサービスがない。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・加齢により足腰が弱くなってきた高齢者が、身体機能の向上ができる場所に通うことにより、もう一度、自分でお店に買物に行ったり、好きな場所に外出できる状態。 ・身体機能が低下し、自宅のお風呂に自力で入ることができなくなった高齢者が、もう一度、自宅のお風呂に入ることができたり、あきらめていた生活ができる状態。 ・介護予防日常生活支援総合事業の通所型サービスB(住民主体による支援)もしくは通所型サービスC(短期集中予防サービス)のサービス提供者が現れる状態。 ・介護給付費の増大を抑えることにより、介護保険料の値上がりを抑え、市民生活の負担が軽減できる状態。	
	【テーマ】	【関係課】
	在宅療養・ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の普及啓発	トータルサポートセンター
	【解決したい課題・現状】	
9	・在宅療養やACP(アドバンス・ケア・プランニング)については、市民講座や出前講座の実施、広報せとうちや市ホームページへの記事掲載等で市民への普及啓発を行ってきたが、市民講座の参加者アンケートや専門職から挙がる課題等から、在宅療養・ACPについて知り、自身に医療や介護が必要になったときにどうしたいかを前もって考えている市民の割合は高くないと考えられるため、効果的な取り組みが必要。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・市民が、在宅療養やACPについて知り、もしものときに備えて、自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること・どこでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合う機会を持つことができる状態。	
	【テーマ】	【関係課】
	子育てについての意識変化	こども家庭課 健康づくり推進課
	【解決したい課題・現状】	
10	・岡山県の調査によると、本市の合計特殊出生率(2018-2022年)は1.32で、県平均(1.46)よりも低い。 ・本市においては、伝統的な男女の役割分担意識が根強く、男女がともに協力して子育てや家事を行うという意識が低いという調査結果が示されている。 ・また、幼いころの結婚や子どもに関わる経験が不足しているという調査結果も示されており、これらのことが、上記の合計特殊出生率となった要因の一つであると考えられる。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・若年層に対し、「子育てや家事は男女がともに担っていくものである」ということを意識付けし、その負担感を減らすことで、幸福感を感じ自分らしい生活が送れる状態。 ・このことにより、「次の子どもを持ちたい」という希望を生む。 ・次世代を担う若者に、子育て世帯や子どもと触れ合ってもらうことで、子育てすることの喜びを感じてもらい、将来、子を持ちたいという希望を持ってもらう。	

11	【テーマ】	【関係課】
	地域の魅力と暮らしやすさを支える仕組みづくり	建設課
	【解決したい課題・現状】	
	・自治会で伐採や浚渫など実施したくても、高齢化によって実施が困難になっている。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・瀬戸内市内外の市民団体、企業、従業員団体、地域住民が協力し、道路の木の伐採や除草、用水路の浚渫など、地域美化活動などに積極的に参加することで、地域の景観と生活環境(道路や用水路など)が持続的に保たれている状態。 ・またこの協働により、地域の生活環境が向上するだけでなく、地元の自治会を超えたつながりが生まれ、「関係人口」の創出や地域への愛着が育まれている状態。	
12	【テーマ】	【関係課】
	市有建築物の災害対策を市民に広める	建築住宅課 危機管理課
	【解決したい課題・現状】	
	・市が実施している市有建築物の災害対策について、市民への周知が不十分である。 ・建設業の担い手不足が深刻である。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・市有建築物の耐震性能および安全性について、より多くの市民が知っている状態。 ・避難所(公民館)の災害対策およびペット同伴等の様々な方を受け入れる体制があることが周知できている状態。 ・実際の工事現場を見学したり、参加型のワークショップを開催することで、建設業の楽しさや格好良さを知ってもらう。	
13	【テーマ】	【関係課】
	地元産業の認知度向上と若者世代へのしごとづくり	産業振興課
	【解決したい課題・現状】	
	・進学、就職時における若者世代が市外流出し、環流が少ない。 ・地元高校や中学校での探究学習は行っているが、その後の地元定着への流れが作れていない。 ・市内に雇用の受け皿や就業機会はあっても地元産業の認知度は低く、就業時に選択されない。 ・就業に対する若者世代のニーズが把握できておらず、ミスマッチが生じている。 ・若者が地域に定着せず、担い手不足による地域のイベントやコミュニティが維持できなくなっている。 ・事業者と就業者の一体的な支援、地域産業と市民の交流を目的とした拠点施設「地域ビジネス支援センター(仮称)」の建設を進めており、令和8年度中には開設予定としている。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・地域産業の担い手、労働力が十分に確保されており、持続的発展に向けた経済活動が活発化している状態。 ・若者世代の多様な就業希望に見合う企業が市内に存在し、認知され、就業先として選択されることで、若者の地域への定着、環流が生まれる状態。 ・市内企業や学生が地域とつながり、相互理解を深めながら、新たな価値創造や課題解決のプロセスを見いだせる状態。 ・地域ビジネス支援センター(仮称)が若者世代に多く利用される施設となり、多種多様なイベント、交流を通じて、地域産業の拠点として活用される状態。	

14	【テーマ】	【関係課】
	市内の歴史文化資源の普及啓発活動	文化観光課
	【解決したい課題・現状】	
	・文化財保存活用地域計画を策定し、公民館・図書館と連携し、展示などの普及啓発に努めているが、歴史文化資源の継承のためには、より積極的な普及啓発活動を行い、興味を持つ層を新規に獲得する必要がある。	
15	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・市内の重要な文化財を取りあげた「瀬戸内市の関連文化財群のストーリー」に即したテーマで普及啓発活動を行う。講座やフィールドワーク、ワークショップ、イベントや展示の開催など。市内に豊富にある歴史文化資源を、より頻繁な普及啓発活動を通して認知度の向上を図ることで、市民のシビックプライドの醸成や観光資源の増加に寄与し、市民まちづくり意識調査における「すばらしい自然や景観、伝統、歴史、文化が引き継がれたまち」の実感度のさらなる向上を目指す。なお、新規に関心を持つ層を増やすために、既存の活動の継続ではなく、新しいアプローチによる活動を募集する。	
	【テーマ】	【関係課】
	子ども(未就学児～小学生)のニュースポーツを通じた世代間交流	社会教育課
16	【解決したい課題・現状】	
	・放課後の時間帯に子どもたちが安全に過ごせる居場所・時間を設けたい。 ・スポーツ少年団やスポーツクラブに所属していなくてもスポーツに触れ、子どものスポーツ習慣の定着を図りつつ、スポーツを通じて同年代だけでなく世代を越えた地域の人々と交流する機会をつくりたい。 ・指導者等で参加する大人世代(若者～高齢者世代)にとっても活動への参加(参画)を通じて、自身の生涯学習につながる機会をつくりたい。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・放課後に子どもたちが安全に過ごせ、多世代と交流できる時間(居場所)の創出。 ・ニュースポーツを通じて子どもたちが気軽にスポーツに触れる機会を創出し、運動習慣の定着につなげ、健康増進、体力向上につなげる。 ・子どもだけでなく、運営(サポート側)の大人にとっても世代を超えた交流機会として、地域の繋がりを強くする機会にする。	
16	【テーマ】	【関係課】
	牛窓図書館・長船図書館・移動図書館サービスの充実	図書館
	【解決したい課題・現状】	
	・瀬戸内市民図書館は、令和8年度に開館10周年を迎え、市民の認知度も高まり、多くの方に利用されているが、分館や移動図書館での利用は多いとはいえない。 ・長船図書館は、令和6年度にリニューアルし、以前に比べ利用が増えてはいるが、おはなし会以外のイベントが実施できていない。 ・牛窓図書館もおはなし会以外のイベントが実施できていない。	
16	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・全域サービスとしての図書館利用の周知。 ・市民図書館の利用が困難な方が、地区館や移動図書館を積極的に利用できる状態。 ・地区館でも、市民交流や読書活動を推進するイベントの実施。	